

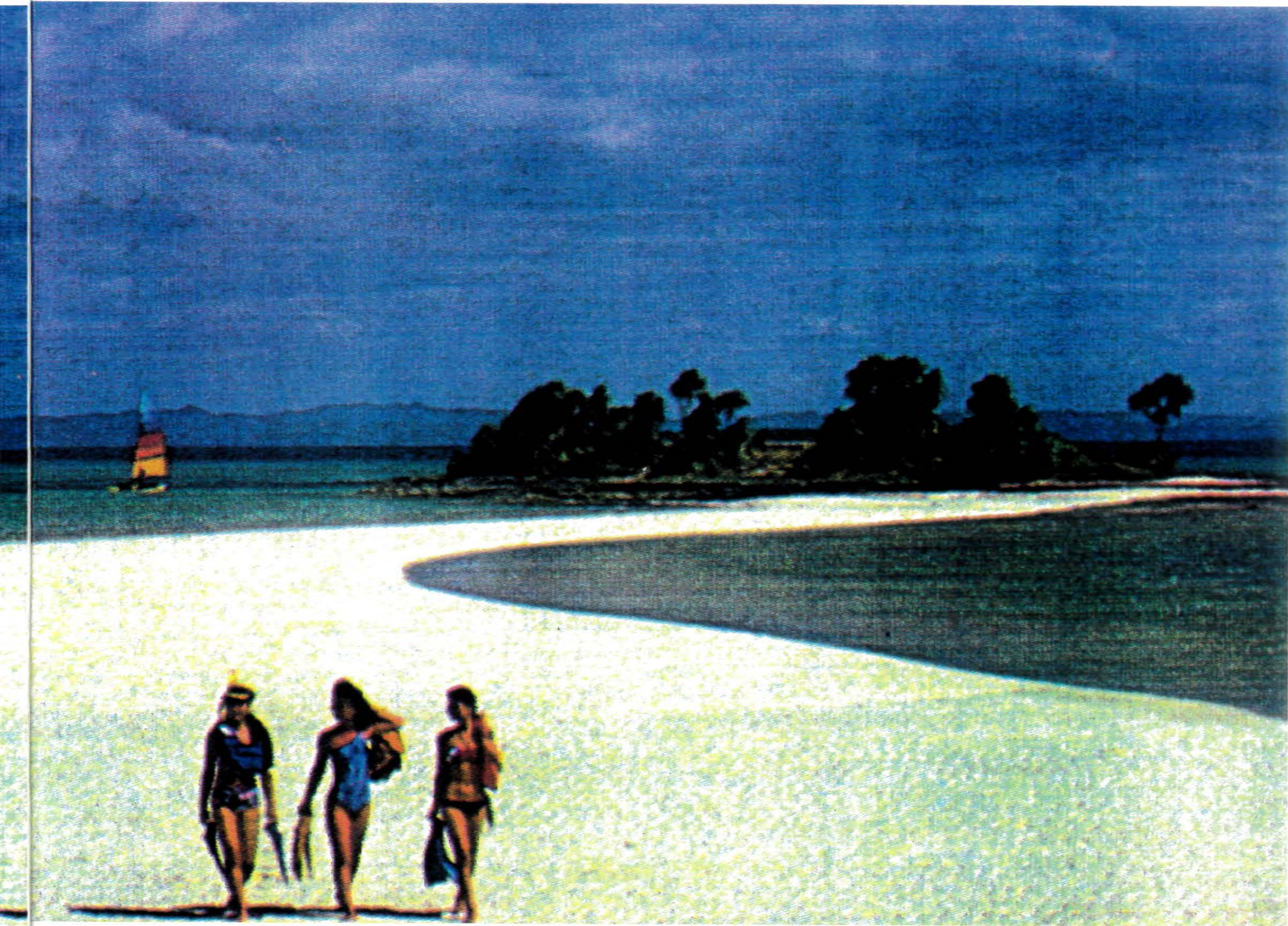
TUBE BOAT

マリンレジャー用品開発企画書

1990年2月10日

株式会社 童 夢

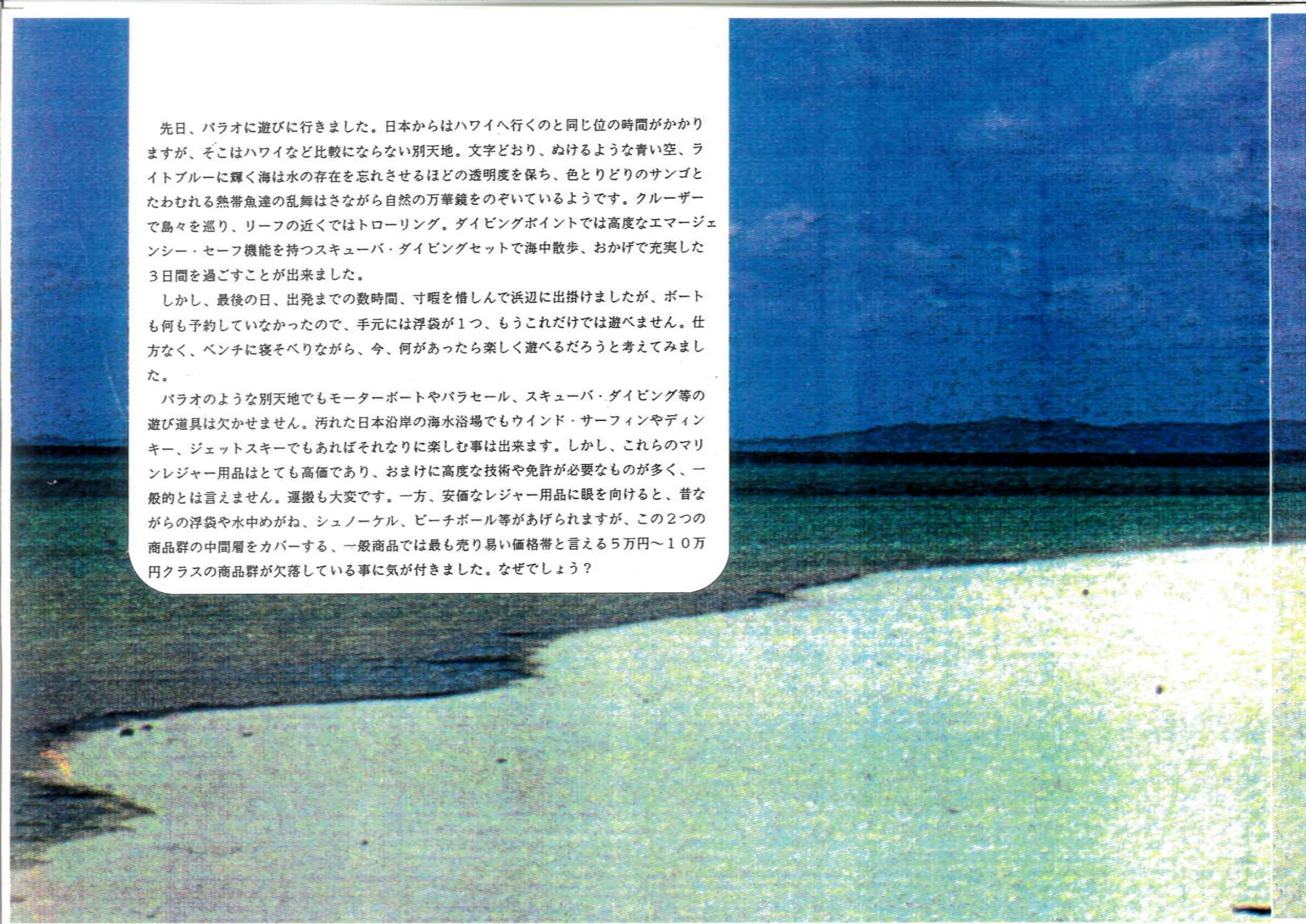
企画責任者 林ミノル



先日、パラオに遊びに行きました。日本からはハワイへ行くのと同じ位の時間がかかりますが、そこはハワイなど比較にならない別天地。文字どおり、ぬけるような青い空、ライトブルーに輝く海は水の存在を忘れさせるほどの透明度を保ち、色とりどりのサンゴとたわむれる熱帯魚達の乱舞はさながら自然の万華鏡をのぞいているようです。クルーザーで島々を巡り、リーフの近くではトロリング。ダイビングポイントでは高度なエマージェンシー・セーフ機能を持つスキューバ・ダイビングセットで海中散歩、おかげで充実した3日間を過ごすことが出来ました。

しかし、最後の日、出発までの数時間、寸暇を惜しんで浜辺に出掛けましたが、ボートも何も予約していなかったので、手元には浮袋が1つ、もうこれだけでは遊べません。仕方なく、ベンチに寝そべりながら、今、何があったら楽しく遊べるだろうと考えてみました。

パラオのような別天地でもモーターボートやパラセール、スキューバ・ダイビング等の遊び道具は欠かせません。汚れた日本沿岸の海水浴場でもウインド・サーフィンやディンキー、ジェットスキーでもあればそれなりに楽しむ事は出来ます。しかし、これらのマリレジャー用品はとても高価であり、おまけに高度な技術や免許が必要なものが多く、一般的とは言えません。運搬も大変です。一方、安価なレジャー用品に眼を向けると、昔ながらの浮袋や水中めがね、シュノーケル、ビーチボール等があげられますが、この2つの商品群の中間層をカバーする、一般商品では最も売り易い価格帯と言える5万円~10万円クラスの商品群が欠落している事に気が付きました。なぜでしょう？



なぜ、5万円～10万円クラスの面白いマリ
ンレジャー用品がないのでしょうか。

理由は簡単です。アイデアはあっても、この価格帯での商品化が難しく、また無理に低コ
ストの MATERIAL（発泡スチロール等）を使うと収納性が悪くなり、乗用車での運搬が不
可能となり、商品価値が大きく低下します。

では、どのようなマリ
ンレジャー用品が出現
すればヒット商品になり得るのでしょうか。

このクラスの商品として求められる要件は次のとおりです。

- ①機能性が高い事
- ②スタイリッシュである事
- ③自動車のトランクルームで運搬できる事
- ④操作が容易である事
- ⑤子供・女性を問わず遊べる事
- ⑥安全性が高い事
- ⑦耐久性に優れている事
- ⑧簡単に入手できる事

これらの条件を技術的に満たす事はそれほど難しい事ではないと考えますが、最大のネッ
クとなる事はやはりコストとサイズです。特にその中でもマリ
ンレジャー用品として必要
不可欠な浮力を得る為の構造体の製造に大きなコストを食われてしまいます。

そこで私は、ヒラメキました。

誰でも、どこでも手に入る既製品で低コスト。オーバークオリティとも言える安全性と耐
久性を持ち、しかも収納時には小さくなりスペースを取らない……自動車タイヤ用チュー
ブをフロートに使ったマリ
ンレジャー用品のシリーズを考えてみましょう。

マリンレジャー用品
の価格帯



1000万円以上



500万円



100万円



10万円



1万円以下





1. ヨット

浮輪に座って水面をぶかぶか漂っている時、ふと、これにセールでも付いていればヨットのまね事でも出来るのになと考えた事ありませんか？では早速商品化してみましょう。スケッチを見れば解ると思いますが、空気の入ったチューブにヨットの機能部分をはめ込むだけです。もちろん、マストは折りたたんで収納する事が出来ます。基本的な操作はヨットと同じですから、走行原理の理解にも役立ちます。



2. ローボート

いわゆる手こぎボートですが、腕を動かすスペースに制約がある為にオールは単純な往復運動を行うだけで推進力を得られるように工夫されています。オールはフォーミュラカーのサスペンションをイメージしたデザインとし、機能美を強調します。





3. フローティングプレイベース

ユニバーサルジョイントを持つ接続ベルトを複数個使用する事により、好きな個数のチューブをつなぎ浮き島を作る事が出来ます。また、次のようなオプションパーツを用意する事により多目的な用途に対応可能です。(オプション例) 防水ボックスやアイスボックス、ラジカセ等が置けるテーブルやパラソル立て、乗り降り用ステップ、水中鑑賞用ガラスボックス、小型船外エンジン取付ベイ、オール用ハンガー等。



いかがですか、なかなかおしゃれでしょう。

タイヤチューブは定価でも2900円、特需価格ではうんと安く入手可能です。そのチューブにとりつける各パーツ類も量産すれば低コストで製作可能な一般的な工業製品ばかりです。生産上の問題は見当たりません。

しかし、開発は慎重に行う必要があります。

マリンレジャーの定番商品となり得る為に、まず、本格的な基本性能を有するものでなくてはなりません。その為に、十分な開発技術力が必要です。また、レジャー用品として、優れた(カッコいい)デザインである事は絶対条件です。

チューブを利用する目的(低価格化)に合わせて、かなりの量産、販売計画が必要となります。

マリンレジャーの定番アイテムとする為には低価格化が最重要課題となります。その為には量産によるコストダウン、大規模な販売チャンネルの確保、十分な販促活動等が必要です。

TUBE BOATのバリエーションはまだまだ発展途上です。

当初、約10種類の商品がプレゼンテーション可能であると考えます。また、異なったサイズのチューブを使用したり、動力を用いる等様々な展開が考えられ可能性は無限です。

株式会社童夢では、当TUBE BOAT
(仮称)の商品化を計画しています。商品
企画・開発・デザイン・試作までは童夢
で行いますが、生産、販売に関しては未
定です。

連絡先

〒601-12 京都市左京区八瀬花尻町198-1

TEL 075-744-3131

株式会社 童夢 担当者 林 ミノル

